

<学校の教育目標>

ねばり強くやりぬく子

自分で考える

なかまと助け合う

最後までやりきる

<研究主題>

自ら学び、仲間と共に高め合える児童の育成

<児童の実態>

- 既習を生かしながら、課題意識をもって、その解決に向けて主体的に取り組もうとする児童が育っている。
- 根拠になることを指し示し、仲間に分かりやすく伝える表現力が育っている。
- 仲間の考えに関わらせながら、考えを広げたり深めたりすることに弱さが見られる。
- 「学ぶ集団」としての姿は育っている。各教科の「見方・考え方」を十分働かせながら課題解決する力は弱い。

<願う児童の姿>

- ・自らの課題に向かって、意欲的に学ぶ。
- ・自分の考えを、根拠を明確にして、教科の特性に応じて適切に表現する。
- ・「見方・考え方」を働かせながら、仲間と共に深く学び合って課題を解決する。
- ・自分の学びのよさを自覚し、学んだことを次の学習や生活に広げる。

<研究仮説>

魅力ある教材を位置付け、教科の見方・考え方を働かせながら追究ができるように単元を構成した上で、仲間と思考を深め合える学習活動を設定し、ねらいが定着するように見届ける指導・援助を工夫すれば、自ら学び、仲間と共に高め合える児童が育成できる。

研究内容 1 教材や単元構成の工夫	研究内容 2 学習活動の工夫	研究内容 3 指導・援助の工夫
<p>(1) 主体的な学びを促す教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学ぼうとする魅力ある題材や教材の開発及び導入の工夫 <p>(2) 「見方・考え方」等を明確にした単元構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題追究の際に、教科の本質に即した児童がもつ視点（「見方・考え方」）を意図的に位置付けた単元指導計画の作成 ○他教科との関わりを明確にした単元指導計画の作成 	<p>(1) 思考が深まるための学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多面的・多角的に考える学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的な考え方をもちこたせる工夫 ・考えを再構築させる発問の工夫 ○深い学びを行うための効果的な学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・意図的な小集団（ペア・グループ・スクランブル等）で、根拠を指し示しながら自分の考えを伝えたり質問しあったりする場の設定 <p>(2) 他の学習や生活に広げる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを他の学習や生活に広げる学習活動の位置付け 	<p>(1) 「確かな見届け」の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「実態」「学習状況」「定着状況」の見届け ○授業後の「広がり」の見届け <p>(2) 学びのよさを自覚する振り返りと評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の学びのよさを自覚できるような振り返りの位置付け <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの場や時間の確保 ○終末や適宜行う価値付けの充実 <p>(3) 学習環境の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材活用 ・ICT機器 ・ホワイトボード ・実物の提示 ・体験的な活動等

【Nスタ5】①みんなで課題をつくろう ②指し示して説明しよう ③ペア・グループで交流しよう
④ハンドサインで深め合おう ⑤ディープトークで学び合おう